

「20年後のさくら市」作文コンテスト

中学生の部 最優秀賞

さくら市の明るい未来へ向けて

矢板東高等学校附属中学校 1年

渡會 麻友（わたらい まゆ）

私は幼少の頃から十三年間、このさくら市で過ごしてきました。さくら市は台風や洪水などの自然災害が少なく、安心して暮らせる市だと思います。また、東北出身の両親は、降雪が少なくとても過ごしやすいと常々言っています。私はそんなさくら市をより良い市にするためにどんな事をすれば良いのかを考えました。

私は最近、数多のメディアなどで少子高齢化の問題が取り上げられているのを見ます。そのことから私は、この問題の詳しい現状を知るために、総務省統計局のホームページで調べてみることにしました。調べてみた結果二千二十四年四月一日の、日本の子供の数は前年に比べ三十三万人少ない千四百一万人で四十三年連続の減少となり、過去最小となっているそうです。私はこの事実を知り、大変驚きました。そして同時に、このまま私達の世代が大人になってからの社会に対する不安を感じました。ですが、更に調査を続けていくと、とてもうれしくなる情報を得ることができました。栃木県の市町村の中で、さくら市が出生率が一番高かったそうです。このような調査結果から私は、二十年後のさくら市は、人口や出生率が上昇し、「お年寄りの方々から若い世代の人達が助け合える市」になってほしいと思いました。さくら市は現在、子育てのしやすい街として知られており、様々な子育て支援や制度、そして環境が整っています。そんなさくら市を、更に良い市にするために、私は二つの事を考えました。

一つ目は、さくら市の魅力を大々的に、ネットなどを通じて拡散する事です。そうすることで、若い世代からの注目を集め、移住者の増加が見込めると考えました。そこで私は、さくら市のあまり知られていない魅力的な場所を、いくつか調べてみました。その結果、きれいな桜を見ながら散歩や花見を楽しむことができる氏家ゆうゆうパークや、地元特産品を購入したり、温泉を楽しむことができる道の駅きつれがわなどさくら市にはまだ全国に知られていない名所が沢山あることが分かりました。このような魅力を発信することで若い世

代からの注目を集められるのではないかと考えました。

二つ目は、様々な世代が交流できるような機会、場所を作る事です。ご老人の方々も、若い世代の姿を見れば、元気が湧いてくるのではないかと考えました。そしてその場で、若い世代達がご老人の方々にスマホなどの電子機器の使い方を教えたり、逆にご老人の方々は、子供達に伝統的な日本の遊びや技術などを伝える活動を行うことで、地域の活性化なども見込めると考えました。

このような活動を通して、これからもさくら市の人口の増加を目指し、そして、地域一丸となって助け合っていける市になる為に尽力していきたいです。